



平成 28 年 9 月 14 日

会 報 第 2 号

会津「The13」事業協議会 先行事例視察(粟津工場、あわら三国)

発行: 会津「The13」事業協議会

事務局 〒965-0873 福島県会津若松市追手町 5 番 36 号

TEL 0242-29-1910 FAX0242-29-5916 E-mail g-ryohei@adoken.co.jp

1 視察実施日

この号の内容

1 視察実施日

2 コマツ粟津工場

バイオマス施設

3 カンファレンス

美松内バイオマスボイラー施設

オープニングセッション

レセプション 情報交換会

シンポジウム

フィールドワーク

・施業現場

・WOOD バイオマスセンターさかい

4 まとめ

1. 平成 28 年 9 月 12 日(月)～13 日(火)

2. 視察場所

12 日 13:00～15:00 コマツ粟津工場(石川県小松市)

16:30～16:50 美松内バイオマスボイラー施設(福井県あわら市)

17:00～18:00 カンファレンス オープニングセッション

18:30～19:30 レセプション: 情報交換会(美松内)

13 日 08:30～08:50 三国観光ホテル内バイオマスボイラー施設

09:30～12:30 シンポジウム

バイオマスエネルギーの未来

基調講演: 熊崎 実 氏 ほか

13:00～16:00 フィールドワーク

・施業現場(タワーヤーダー、他)

・WOOD バイオマスセンターさかい

2 コマツ粟津工場

1. 概要説明



本視察に当たり、コマツの歴史、バイオマスボイラー活用による省エネ、創エネの説明、視察内容の説明を受け、バイオマス施設見学へ向かう。

次回スケジュール

第2回 検討委員会・勉強会

日時:平成 28 年 10 月 4 日

場所:未定

内容

- ・川中(製材所、CLT 工場、プレカット等)の課題と、解決策の検討
- ・13 市町村で取り組む事業の特徴について

講演

秋田県立大学 木材高度加工研究所
教授 高田 克彦 氏

詳細が決定次第ご連絡いたしますので、その際はご出席賜りますようお願いいたします。

2. バイオマス施設



コマツ 栗津工場 生産技術部 農業／林業支援G

主幹 三谷 典夫 氏よりバイオマスボイラー施設の説明を受ける委員の皆様

かが森林組合を通じて地域木材を原料としたチップを購入し、工場内の電気、冷暖房、塗装乾燥(重機の塗装乾燥)に使用し、新建機組立工場においては省エネ、創エネにより従来電力の 90%減が実現できた。また、チップ購入、雇用増大による地域貢献に対しても大きな成果を実現している。



昭和 15 年(1940 年)製造のトラクターを囲み参加者で記念撮影

3 カンファレンス

1. 美松内バイオマスボイラー施設(福井県あわら市) 美松内バイオマスボイラー視察

本カンファレンス会場である美松(ホテル)内に設置したバイオマスボイラー施設(300Kw×2機)についてアルファフォーラム 代表取締役社長 小林 靖尚 氏より説明を受ける。

熱供給事業に対する意識の高さ、重要性を再認識した。



チップ備蓄場



チップ搬送機

中央のばね上の板が回転し、周りの山を崩すことで中央から左上に切られた溝内のドリル型搬送機によりボイラー内へチップを供給している。



バイオマスボイラー室内全景



バイオマスボイラー

上記バイオマスボイラー1基で 300KW の出力
現在 2 基常時稼働により 600KW を出力可能

2. オープニングセッション



公立大学法人・秋田県立大学
木材高度加工研究所 教授 高田 克彦 氏

3. レセプション:情報交換会



経済産業省産業技術環境局長(前農林水産省農村振興局長)
末松 広行 氏

4. シンポジウム 基調講演



(一社)日本木質バイオマスエネルギー協会会長

筑波大学名誉教授 熊崎 実 氏

基準としたエネルギー量に対する太陽光、風力、バイオマスの各発電システムにかかる投資コスト、運用単価、価格変動状況のデータを使用し、木質バイオマスエネルギーの活用はいかに効率的かつ安定的なものかを分かりやすく説明。

- ・「森林資源活用による農山村振興と産業活性化の期待」
末松 広行 氏
経済産業省産業技術環境局長(前農林水産省農村振興局長)
- ・「里山環境保全と資源活用について」
中井 徳太郎 氏
環境省廃棄物リサイクル対策部長(前大臣官房審議官)
- ・「地域主導分散型エネルギー事業について」
猿渡 知之 氏
総務省大臣官房審議官
- ・「木質バイオマスと森林林業の未来」
吉田 誠 氏
林野庁林政部木材利用課長

5. フィールドワーク 施業現場



タワーヤーダー

住友林業㈱で実施しているタワーヤーダーによる木材伐出を視察



本来は引き上げによる伐出を想定した機材であるが、住友林業㈱とタワーヤーダー製造メーカーとの協業で、吊り下げと横移動へも対応した機器調整・改良を実施した。

約 100m 程下の伐採現場より数十秒で引き上げる事が可能で、伐出効率の高さを実感した。

6. フィールドワーク

WOOD バイオマスセンターさかい

坂井林業組合が主体事業者でWOOD バイオマスセンターさかい、リサイクルセンター、バイオマス事業を展開し、チップ、ペレット、エコ建材を製造。



乾燥



チップパーによる粉碎



4 まとめ

この度の先行事例視察では、ご多用の中、委員、行政、企業より 18 名のご参加をいただき実施できましたこと、この場をお借りして御礼申し上げます。

本視察で、「森林資源活用による循環型地域経済とは何か…」を直接見て、聞いて、考える事ができ、会津において本事業を展開する上で将来像や問題点、課題が見えてきたのではないかと感じております。
残された 3 回の検討委員会・勉強会において、会津の地に密着した循環型地域経済の検討を実施し、来たる事業化へ向け大きな一歩となるよう委員皆様のご協力を今後とも賜りたくよろしくお願い申し上げます。

会津「The13」事業協議会

先行事例視察

(実施日：平成 28 年 9 月 12 日～13 日)

福島民報新聞
平成 28 年 9 月 13 日掲載

バイオマス先進地視察

会津事業協 石川、福井県訪問

会津地方十三市町村の商工会議所や商工会、企業などをつくる「会津『The13』事業協議会」は十二日、木質バイオマス熱源エネルギー活用方法を学ぶための先進事例視察として石川、福井両県を訪れた。分散型ボイラーの推進など会津に適した施設整備の可能性を探った。

唐橋幸市郎理事長「所会頭」ら十八人が参（会津喜多方商工会議）加した。一行は石川県小松市にある建設機械「散型木質ボイラー」を大手コマツの製津工場利用した湯水供給や暖房を訪れた。同工場は石川県産木材を加工した木質チップを年間七千ト燃焼させ、ボイラー稼働により電気や温水を工場内の各施設に供給している。引き続（会津喜多方商工会議）加した。一行は石川県小松市にある建設機械「散型木質ボイラー」を大手コマツの製津工場利用した湯水供給や暖房を訪れた。同工場は石川県産木材を加工した木質チップを年間七千ト燃焼させ、ボイラー稼働により電気や温水を工場内の各施設に供給している。引き続

唐橋理事長は「森林資源を生かした循環型エネルギー供給が会津でも可能だと実感した。事業を展開させるため官民一体となり協議を進めたい」と語った。

一行は十三日、あわら市で開催されている木質バイオマスの利活用を探る「あわら三国」する。もりもりバイオマスカンファレンスに参加に発足した。将来的には会津地方約百万所に木質ボイラーを建設する計画を立てている。



木質バイオマスボイラー（後方）を視察する会員ら＝石川県小松市

福島民報新聞
平成 28 年 9 月 15 日掲載

ふくしま応援ニュース



木質チップ現場巡る

会津の事業所など福井視察

会津地方十三市町村の商工会議所や商工会、企業などをつくる「会津『The13』事業協議会」のメンバーは十三日、福井県で開かれた「木質バイオマスエネルギーの活用を促す」あわら市視察ツアーに参加し、木質チップの生産現場などを巡った。

唐橋幸市郎理事長（会津喜多方商工会議所会頭）ら約二十人が参加した。一行は山林から運ばれた木材が同県あわら市の坂井森林組合で木質チップに加

工されるまでの過程を視察した。年間約千五百トンのチップが製造され、温泉施設の木質ボイラーで燃やされシャワー用の温水などに活用されている。

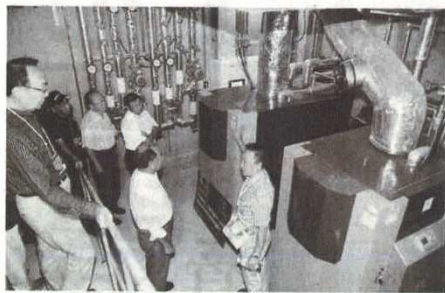
同協議会は会津地方約百カ所に分散型木質ボイラーを建設し、循環型エネルギー事業を展開する計画を立てている。

福島民報新聞
平成 28 年 9 月 18 日掲載

会津事業協バイオマス先進地視察

官民一体の 連携不可欠

会津地方13市町村の商工会議所や商工会、企業などをつくる「会津『The13』事業協議会」が12、13両日に石川、福井両県で実施した木質バイオマスエネルギー先進事例視察に同行した。施設整備をはじめ、官民一体で取り組む姿勢などを目の当たりにしハード、ソフト両面の体制づくりが不可欠であるという認識を新たにした。（喜多方支社・服部 鷹彦）



温泉施設に隣接する木質バイオマスボイラーを視察する会員ら＝福井県あわら市

石川 福井 両県事例学ぶ

「三者にメリットがあるよう、何度も話し合いを重ねた。石川県小松市にある建設機械大手コマツ製津工場の担当者は振り返る。同社は平成二十六年に石川県と県森林組合連合会と森林資源活用に向けた協定を交わした。同社は大型バイオマスボイラー（利用熱量三千二百キロワット）を設置、連合会が石川県産木材を伐採し年間約七千トンの木質チップを供給する体制を整えた。間伐により環境整備を進めたい県側の思惑も一致し、森林資源活用に向けて動き出した。

一方、福井県では、会津

おり、将来は福井の取り組みと重なる部分が多い。

会津地方十三市町村の森林面積は約二十二万八千ヘクタール。古里に眠る資源を生かす、いかに地域経済を潤せるのか。関係機関の一層の連携が必要となってくる。